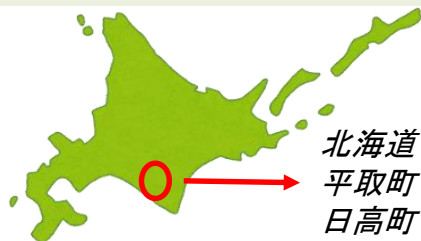


産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(R1~R2年度:計画作成主体:平取町農業協議会)(北海道)

取組の概要

- 対象品目 : トマト (産地面積: 15.66ha)
 主な取組主体 : 生産者17戸
 成果目標 : 労働生産性10%以上向上
 現状 (H26~30の5中3) 4,029円/時間
 目標 (R4年度) 4,496円/時間
 導入施設等 : 生産支援事業
 ・リース資材(環境制御装置一式)



ポイント

【産地の課題及び取組方向】

現在、高齢化による離農及び後継者不在に伴う作付け面積の減退や労働力不足を起因とした生産量の減少している。
 生産性向上や収量の安定化・省力化に伴う作付拡大等による産地振興と収益力の強化を目指す。



【産地の体質強化に向けた方策】

ICT技術(環境モニター)により栽培技術のデジタル化を図り、併せて対応する環境制御機械を導入し効率的な運用を行うことで生産性の向上及び作業の省力化に伴う労働時間の短縮などの経営コスト削減を目的として実施する。

産地体制

- ・平取町
- ・日高町
- ・びらとり農業協同組合
- ・日高農業改良普及センター

平取町農業協議会

- ①計画の策定・管理
- ②取組計画への助言

指導・助言

情報共有

- ・協議会と取組主体との情報共有(取組状況等)
- ・行政機関(県、町)及び農協等によるサポート体制

取組主体

- ①取組計画の作成
- ②取組実施 等

地域における独自の取組

〈主な取組〉

- ・生産に対してのルール(栽培基準)を定める。
- ・高品質、安定生産技術の研鑽等を図る。
- ・平取町産地維持に向けて従来の新規就農支援に加え、離農・減反する農家と就農希望者のマッチングなど、新たな取組を検討。

取組成果

【事業実施による直接効果】

- ①ICT先端技術導入により生産技術の可視化と情報共有による生産技術の底上げ
- ②運用を行うことで生産性の向上と省力化によるコスト低減を実現することにより農業所得の安定化

【事業実施による間接効果】

- ①担い手確保による作付面積の確保
- ②トマトの品質安定化による生産量の安定

労働生産性の向上

目標値
4,496円/時間

4,029円/時間

H26~30の5中3

(基準年)

R4

(目標年)

